

4. 新聞等に掲載された研究

衛生学講座 (Preventive Medicine & Health Promotion)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
齋藤 寛・教授	カドミウムの健康影響	長崎新聞	2000.12.18	対馬のカドミウム汚染改良農地のカドミウム影響値の再調査が始まった。ここでは米・野菜の自給率が高いため、住民の食事からのカドミウム摂取量でこれを求める。WHOの安全基準を下回れば安全宣言ができる見込みだ。

公衆衛生学 (Public Health)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
草野洋介・助手	長崎県における妊婦クラミジアスクリーニングの現状	Medical Tribune	平成12年 1月27日	第十二回日本性感染症学会において長崎県において行われている妊婦のクラミジア抗体スクリーニングの現状を報告し、より正確に感染の状況を把握できるPCRを用いた抗原検査への切り替えを行うことを併せて発表した
草野洋介・助手	長崎県における低容量ピルの処方状況	Medical Tribune	平成12年 12月28日	第十三回日本性感染症学会において低容量ピル解禁後一年経過した時点での長崎県における処方状況を調査し、報告した。

原爆後障害医療研究施設 放射線障害解析部門 放射線応答解析研究分野

(Department of Radiation Biophysics, Radiation Effect Research Unit, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
奥村 寛・教授	つなげ被爆地と NGO	長崎新聞	2000.11.12	放射線研究の成果が世界の核廃絶へと導く
芦澤潔人・助手	被ばく者医療	毎日新聞	2000.7.19	ロシアなどから外国人医師を研修のため招聘
芦澤潔人・助手	被ばく者医療	長崎新聞	2000.7.19	ロシアなどから外国人医師を研修のため招聘

原爆後障害医療研究施設 分子医療部門 変異遺伝子解析研究分野

(Department of Human Genetics, Molecular Medicine Unit, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
吉浦孝一郎・助手	エンゲルマン病の原因遺伝子	読売新聞	10月4日	エンゲルマン病の原因遺伝子がTGF- β 1であることを発見

原爆後障害医療研究施設 分子医療部門 分子診断研究分野

(Department of Molecular Medicine, Molecular Medicine Unit, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
パーシン・ウラジミール・客員教授	甲状腺疾患の診断用教科書を出版するパーシン・ウラジミールさん	西日本新聞	2000年 1月28日	国際ヒバクシャ医療
パーシン・ウラジミール・客員教授	国人客員教授「甲状腺診断学教科書」出版	長崎大学学報	2000年 5月1日	国際ヒバクシャ医療
スタニスラフ・シュクラエフ・大学院生	志高く医学に励む留学生、スタニスラフ・シュクラエフさん	広報ながさき	2000年 6月1日	国際ヒバクシャ医療
	講演会「みんなで考えよう放射線被ばく・被爆地長崎から」が6日長崎原爆資料館にて開かれ、約150人が参加した。	朝日新聞	2000年 8月7日	国際ヒバクシャ医療
	「放射線被ばく考えよう」原爆資料館でシンポジウム、外国研修医も参加	西日本新聞	2000年 8月7日	国際ヒバクシャ医療
	原子力災害の対策など考える 長崎で講演会	読売新聞	2000年 8月7日	国際ヒバクシャ医療
	被爆55周年、放射線や被ばくについて市民に関心を深めてもらう公開セミナーが長崎原爆資料館で行われた。	長崎新聞	2000年 8月7日	国際ヒバクシャ医療

原爆後障害医療研究施設 国際放射線保健部門

(Department of International Health and Radiation Research, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
パーシン・ウラ ジミール・客員 教授	甲状腺疾患の診断用教科 書を出版するパーシン・ ウラジミールさん	西日本新聞	2000年 1月28日	国際ヒバクシャ医療
パーシン・ウラ ジミール・客員 教授	外国人客員教授「甲状腺 診断学教科書」出版	長崎大学学報	2000年 5月1日	国際ヒバクシャ医療
	講演会「みんなで考えよ う放射線被ばく・被爆地 長崎から」が6日長崎原 爆資料館にて開かれ、約 150人が参加した。	朝日新聞	2000年 8月7日	国際ヒバクシャ医療
	「放射線被ばく考えよう」 原爆資料館でシンポジウ ム、外国研修医も参加	西日本新聞	2000年 8月7日	国際ヒバクシャ医療
	原子力災害の対策など考 える 長崎で講演会	読売新聞	2000年 8月7日	国際ヒバクシャ医療
	被爆55周年、放射線や被 ばくについて市民に関心 を深めてもらう公開セミ ナーが長崎原爆資料館で 行われた。	長崎新聞	2000年 8月7日	国際ヒバクシャ医療

原爆後障害医療研究施設 資料収集保存部 資料調査室

(Biostatistics Section Division of Scientific Data Registry, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
三根真理子 ・助教授	被爆未指定地域問題	朝日新聞	2000.7.27	調査の分析結果をシンポジウムで 報告
三根真理子 ・助教授	心の傷証言に重み	西日本新聞	2000.8.3	被爆者の精神的影響調査を参考に 未指定地域の証言調査を分析
三根真理子 ・助教授	被爆の歴史学生に伝えた い	読売新聞	2000.9.24	原爆の実態を学生に講義すると共 に修学旅行生への説明を通し、平 和活動に貢献

内科学第一講座 (Internal Medicine I)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
芦澤潔人(助手)	被爆者医療に研修医6人	毎日新聞	2000. 7. 19	研修のためロシアなどから外国人医師を招聘
芦澤潔人(助手)	放射線被ばく医療を研修 ロシアなどの医師6人来 崎	長崎新聞	2000. 7. 19	研修のためロシアなどから外国人医師を招聘 矢野公士(助手)
矢野公士(助手)	Dr 矢野のガーナ見聞録 握手の後に音!? 親愛の情	読売新聞	2000. 1. 19	アフリカ、ガーナの大使館医務官に長崎大学医学部が人材派遣をすることになり、その目的と任務を紹介。以後、月1回の割でアフリカ生活の印象をエッセイ風にレポート。エッセイ連載6回目。興味深いガーナの風習について考察。
矢野公士(助手)	Dr 矢野のガーナ見聞録 使用人の扱いに戸惑い	読売新聞	2000. 3. 1	エッセイ連載7回目。日本では経験しない使用人の扱いについて、欧米人と対比しながら考察
矢野公士(助手)	Dr 矢野のガーナ見聞録 黄金と奴隷の歴史を象徴	読売新聞	2000. 3. 21	エッセイ連載8回目。かつての黄金海岸のなごりを残すユネスコ世界遺産「エルミナ城」を奴隷貿易の歴史
矢野公士(助手)	Dr 矢野のガーナ見聞録 「曜日で命名」が伝統	読売新聞	2000. 4. 19	エッセイ連載9回目。ガーナ独特の、生まれた曜日で命名する「曜日名」を紹介。
矢野公士(助手)	Dr 矢野のガーナ見聞録 文明を支える水力発電	読売新聞	2000. 5. 1	エッセイ最終回。世界一の規模の人造湖、アコソボダムの紹介。ガーナの水力発電、発展途上国における電力、文明に関する考察。
矢野公士(助手)	ガーナの経験生かしたい “ドクター矢野” 帰国	読売新聞	2000. 5. 26	帰国に際してのインタビュー。初代医務官としての特異な経験を振り返る。
矢野公士(助手)	海外旅行と健康	NCCテレビ 健康塾	2000. 10. 21	大使館医務官の経験に基づき、海外旅行、特に発展途上国に赴く際の注意と心構えについて旅行医学の観点から一般向けに解説。

内科学第二講座 (Internal Medicine II)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
河野 茂 教授	ビデオ第73回日本感染症学会総会シンポジウム「結核の諸問題」	ケアネットTV		近年結核の新規発生の増加傾向、医療従事者を含む集団感染、多剤耐性菌、エイズ合併結核といった新しい問題が登場している。結核をめぐる諸問題について解説した。
河野 茂 教授	新手のビブリオ・ブルニフィカス“人喰いバクテリア”	公明新聞	00. 8. 26	ビブリオ・ブルニフィカスと呼ばれる細菌は、特に肝臓病などの慢性疾患がある人に発症しやすい。発症すれば極めて死亡率は高い。本疾患の解説と慢性基礎疾患を持った方の本症の予防法について執筆した。
河野 茂 教授	健康第一・タバコと肺の疾患	KTNテレビみゅーで	00. 10. 25	喫煙によって発症の危険が増大する疾患として肺気腫、肺癌があげられる。喫煙とこれら肺疾患について解説した。また、喫煙により、周囲にいる他人にも健康被害を及ぼしている事実についても解説した。
河野 茂 教授	ビデオ 緑膿菌肺炎の新しい選択剤 注射用ニューキノロン	バイエル学術ビデオ		シプロキサシ注射剤は医療現場で大きな問題である緑膿菌による院内肺炎に、新しい選択薬として期待されている。マウスの緑膿菌肺炎モデル実験などを通して、シプロキサシ注の優れた組織移行性や確実な抗菌作用を顕微鏡映像等で明らかにした。
河野 茂 教授	新しい薬の誕生「治験」ってなあに？	テレビ長崎	00. 12. 10	新薬の開発には治験は欠かせないステップである。この開発の過程と治験の必要性について概説し、新薬の開発には患者さんの理解と協力が大切であることが確認された。
河野 茂 教授	DDS 21世紀に向けた薬剤療法	朝日新聞	00. 12. 23	DDS (drug delivery system) とは薬の効果を最大限に発揮し、かつ副作用を最低限に抑えるようにコントロールする投薬システムの事である。このDDS療法の内容や展望について解説した。

内科学第三講座 (Internal Medicine III)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
矢野捷介	循環器科学不整脈	放送大学 テレビ講義	2000.2.3 収録	不整脈の発現に関与する心臓の刺激伝導系について解説し、ついで主要な不整脈の発現機序を説明した。さらに各種不整脈の診断について主として心電図所見をもとに解説した。また、脚ブロックについても解説した。
矢野捷介	狭心症・心筋梗塞の正しい予防と対策	長崎新聞	2000.10.24 健康セミナー 2000.11.20 掲載	狭心症と心筋梗塞の予防には、動脈硬化を促進する因子、すなわち高血圧、高脂血症、糖尿病、肥満、その他などをコントロールする必要があり、狭心症・心筋梗塞を発症した後は日常生活における注意事項を守って再発を防がねばならないと解説した。

精神神経科学講座 (Neuropsychiatry)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
中根允文・教授	医療・保健・看護「こころの健康・不健康」	Wing'21 (福祉総合情報誌)	2000.03.01	こころの健康を維持するには、早期に不健康を発見するように努める必要がある。そこで、健康・不健康とはどのような枠組みに基づくかを紹介した。
中根允文・教授	うつ病治療の最前線	NHKクロースアップ現代	2000.05.24	精神科疾患のかなりな部分が、精神科以外のプライマリ・ケアなどで診療されている現状から、その代表的なうつ病について、その特徴的な症状や生物学的背景、診療の現状などについて紹介した。
中根允文・教授	被爆地域拡大是正問題	長崎新聞	2000.07.27	長崎で取り組んできた原爆被爆者の精神的健康に関する調査研究が、被爆未指定地域の人々においてどのように関係しているかをまとめて講演したこと紹介された。
中根允文・教授	大学病院の診療現場	望星「子どもが『怖い』大人たち」	2000.10.28	子どもによる様々な問題行動が報道される中、精神科医はいかに考えているのか、特に大学病院の中ではどのような診療が、そうした子どもたちに提供されているのかを紹介した。

外科学第一講座 (Surgery I)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
中越 享 ・助教授	早期大腸がんに近い BEST25	サンデー毎日	2000年 1月23日	大腸がん発生過程の分析と検査診断、早期の根治的外科手術

皮膚科学講座 (Dermatology)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
片山 一朗 教授	論文：アトピー性皮膚炎 とステロイド	JAMA <日本語版>	2000/6	片山一朗：皮膚41巻増刊21号を紹介 適切なステロイドの使用が必要であることを啓蒙
片山 一朗 教授	トレンドビュー [蕁麻疹 の一因にピロリ菌感染原因不明の多くは“感染症”?]	Nikkei Medical	2000/6	患者はCRPが異常高値であることを報告し、蕁麻疹の病因に感染症の関与が考えられることを報告した。
片山 一朗 教授	研究室便り 長崎大学医学部皮膚科	九州アレルギー・免疫センター平成11年度事業内容報告		長崎大学皮膚科におけるアレルギー研究の現状を紹介
片山 一朗 教授	アトピー性皮膚炎	西日本新聞	2000/2/17	アトピー性皮膚炎の治療の現状を解説
片山 一朗 教授	「皮膚科学」研究最前線 片山一朗氏に聞く 増加する「アトピー性皮膚炎」	西日本新聞	2000/5/3	アトピー性皮膚炎の研究の現状を紹介
片山 一朗 教授	アトピーからの“生還”	読売ライフ	2000/5	ステロイドの適切な使用についてのデータ掲載

脳神経外科学講座 (Neurosurgery)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
柴田 尚武 教授	脳梗塞の治療はいま……	西日本新聞	2000.4.22	脳疾患に対する高度先進医療の普及